

令和3年度 学校評価実施報告書

学校名 (岡崎中学校)

教育目標	
「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高め、 確かな学力・豊かな心・健やかな体を備えた生徒を育成する	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>「自ら学ぶ力」「自ら律する力」を高めることを目標に、各教科とも主体的、対話的で深い学びを習慣化してきた。一人一台端末も年度当初から本格的に活用が始まり、校内研修会や教科会などを通して、よりよい授業の構築を目指してきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、教職員が他校の実践を見て学ぶ場が限られたり、保護者の授業参観を制限など教職員が刺激を受ける機会が今年度もほとんど実施できなかった。各学年・各教科とも生徒にとって魅力的な授業実践になるよう、教科会を定例で実施し、授業について積極的に意見交換していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、行事や授業参観を目にする機会はほとんどなかったが、地域で目にする生徒や、学校運営協議会で来校時の教職員からの挨拶も気持ちの良いものがあり学校全体の雰囲気の良いを感じる。各種アンケート結果を見ても、教職員と生徒・保護者がよい関係であることが見て取れる。1つ気になるのは、生徒アンケートで「自分には良いところがある」という項目に対して相変わらず否定的な回答が多いことである。生徒の様子を見ている、はつらつと行動しておりもっと自分に自信を持って欲しいと感じる。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月26日	学校運営協議会 理事
最終評価	令和4年2月10日	学校運営協議会 理事 書面開催

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
<p>「自ら学習する力・自ら考え表現する力を身につけさせる」</p> <p>・すべての教育活動の基本は『授業』であるという認識を生徒・教職員が、共に持つこと。その上で、『主体的、対話的で深い学び』をめざした授業づくりに取り組む。生徒が輝き、お互いに信頼感のある授業の実現を目指す。また、家庭学習を定着・充実させるために、各授業は予習・復習を前提として行うことを共通認識し、家庭学習と授業のつながりを重視しながら、学力の向上に繋げる。</p>

具体的な取組

1. 六校（岡崎中・近衛中・錦林小・第三錦林小・第四錦林小・北白川小）で作成した「構想図」を軸とした取組を実践し、教育課程の編成や指導形態を工夫・改善し、9年間一貫した体制を構築することで確かな学力の定着を図る。
2. 日常的な授業改善を図るため、教科会を基盤として教材研究を推進し、指導内容の精選や指導法の工夫と改善に努める。
3. 岡崎中ブロックで協力して、家庭での自学自習の習慣をつけるために、家庭学習の具体的な方法などを提示し、授業に繋げる家庭学習の推進を図る。
4. 図書支援員と連携し、図書館活用を推進し、読書の推進だけでなく、各教科で図書館を活用した授業をすすめ、生徒自らが課題解決学習に取り組めるよう図っていく。
5. 生徒が日常的・主体的・効果的な学びを進めることができるよう指導し、教材研究・評価等に ICT 機器を効果的に活用し、必要となる ICT 活用指導力の向上に努める。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・全国学力調査・ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果
 - ・生徒及び保護者アンケートの結果
- ① 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれている。
 - ② 私は、家で自分で計画を立てて勉強している。
 - ③ 子どもは、授業の内容をよく理解し、興味・関心をもって取り組んでいる。
 - ④ 個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した取組が行われている。

中間評価

各種指標結果

学習確認プログラム（1年生はジョイントプログラム）の結果は、学年によって大きく差がある。4月実施の1年生は全市平均よりやや上、2年生の1stは各教科とも全市平均をかなり上回る（社会・英語は顕著）、3年生の1stは教科によってかなりばらつきがあり、社会は+6 数学は-7 全市平均と差がある

前期アンケートの結果

- ① すべての学年で90%以上の生徒が肯定的な回答
- ② 全体として63%の生徒が肯定的な回答
- ③ 全体として78%の保護者が肯定的な回答
- ④ 全体として73%の保護者が肯定的な回答

自己評価

分析（成果と課題）

学習確認プログラムの結果は学年、教科によってかなり差がある。単純に全市平均より上下という問題ではなく、結果の出ている教科会で主体的・対話的な深い学びをめざした授業づくり（改善）を推進していく

分析を踏まえた取組の改善

小規模校の為に、同一教科での人員が少なく教科会が開催できない教科や、多くの視点から意見交換を行うことが難しいが、10月末に開催予定の支部授業研究などを大いに活用して、よりよい授業改善に取り組みたい

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種

	<p>保護者・生徒アンケートの結果</p> <p>① 学校は、子どもが落ち着いて学習できる環境になっている</p> <p>② 子どもは、授業内容をよく理解し、興味・関心をもって取り組んでいる</p> <p>③ 家で自分で計画を立てて学習している</p> <p>④ 学習の中でコンピューターやICT機器を使うのは、学習の役に立つと思う</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>昨年度からのコロナ禍、学校は様々な苦勞を抱えながらの運営であると思うが、個々の生徒にしっかりとした学力が身につくよう取り組みを継続してほしい</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>① 全体として90%以上の保護者が肯定的な回答</p> <p>② 全体として75%の保護者が肯定的な回答</p> <p>③ 全体として60%の生徒が肯定的な回答</p> <p>④ 全体として92%の生徒が肯定的な回答</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>令和3年度も引き続き学校全体として落ち着いた状態の中で授業等の教育活動を進めることができた。今年度よりあらゆる教育活動の中で一人一台端末を本格的に活用しているが、コロナ禍で他校の実践などを研修する機会が少なく、活用方法に対する教師側のさらなるスキルアップが必要である。また、令和4年に入ってから第6波により、感染拡大防止の為に登校を控える生徒が続出し、端末活用による授業配信などは実施したが、十分な学力保障には繋がっていない心配がある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>年度の後半、令和4年に入ってからコロナ感染拡大に伴い、続出する欠席生徒への対応と教職員不足から所謂「コロナ対応」に追われてしまい、学力向上に向けた取組に気を配ることができず、日々の授業を何とかやりくりすることに精いっぱい状態であったのが正直なところである。次年度に向けても、日常的な授業改善を図るために指導内容の精選や指導法の工夫と改善に努めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍が続き、様々な制限や困難がある中であるがICT機器をより有効に活用して、子どもたちの「確かな学力」を高めてほしい。</p>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>「しなやかな道徳」の研究指定に基づき研究を推進し、思いやりの心を育てるとともに自らを律することのできる生徒とその集団を育てる。</p>
--

具体的な取組

1. 道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」を充実させるとともに、他の様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していく。
2. 望ましい人間関係の中で、生徒が集団の一員として協働する態度を育成するとともに、場と状況を考え、他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒を育成する。
3. これまでの本校の「人権学習」を、カリキュラム・マネジメントの視点から再構築する。いじめをはじめとする人権侵害を絶対に許さないという強い姿勢を持って、人権文化の確立を図る。
4. 「人のために」行動することの素晴らしさを知り、そして見守り育ててくれている地域との連携をすすめて、地域に貢献できる生徒を育てる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・道徳授業で生徒が記入したワークシート
 - ・生徒アンケートの結果
- ① 私は、人が困っているときは、進んで助けている。
 - ② 私は、人の役に立つ人間になりたいと思う。
 - ③ 私は、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う。

中間評価

各種指標結果

- ① 全体として84%の生徒が肯定的な回答
- ② 全体として96%の生徒が肯定的な回答
- ③ 全体として91%の生徒が肯定的な回答

自己評価

分析(成果と課題)

特別の教科道徳の授業はもちろんであるが、全教職員が「生徒指導の3機能」を意識した毎日の教育実践を目指している

分析を踏まえた取組の改善

道徳的実践力を生徒に身につけさせられるように、日常の教科学習、行事などすべての教育活動の中で自らを律することができる生徒集団を形成するために、道徳や生徒指導の校内研修を年度の後半も充実させたい

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

生徒アンケートの結果

- ① 私は、人が困っているときは、進んで助けている。
- ② 私は、人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ③ 私は、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍、学校に足を運んで生徒の様子をうかがう機会はないが、地域ですぐ子どもたちの様子を見てみると、子どもたちが精神的に落ち着いた状況にあることが推察できる</p>
---------	---

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>① 全体として84%の生徒が肯定的な回答 ② 全体として97%の生徒が肯定的な回答 ③ 全体として90%の生徒が肯定的な回答</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>指標となるアンケート結果の数値は, 前期に実施したものとほとんど差がなかった。年間を通して教科道徳の授業はもちろんであるが, 全教職員が「生徒指導の3機能」を意識した教育実践が行われたと考えている。次年度も全教職員で意識を共有していきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>令和2年・3年と「しなやかな道徳」の研究指定を受けて, 小中一貫の取組や評価評定の在り方, よりよい授業実践などについて校内で研究・研修を重ねてきた。その結果, 教職員の意識や実践力が向上したと考えている。研究指定は今年度で一旦終了であるが, この2年間で培った実践や理念は今後も継続していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>指標として定められた各種アンケート結果の数値も安定して高い。「特別の教科道徳」として位置付けられ, 目標に向かって取り組み, 教職員が様々な努力をしていることがわかる。</p>

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>命を大切にし, 健やかな体を育てる健康教育を実践する。</p>
<p>具体的な取組</p> <p>「いのちを守る」ことの大切さを基盤にして, 以下の取組を行う。</p> <p>①自らの健康のために食習慣や生活習慣の在り方を考え, 実践しようとする生徒を育成する。</p> <p>③ 1・2年生で「非行防止教室」, 3年生で「薬物乱用防止教室」, 全ての学年で「性教育指導」を系統立てて取り組む。</p> <p>③ 防災意識を高め, 安全や防災教育の充実・発展を図る。特に, 災害時に自らの命を守る自助の力, 他の人の命を助ける共助の力を育成する。</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>生徒アンケートの結果</p> <p>① 私は, 朝食を毎日食べている。 ② 私は, 毎日同じくらいの時刻に寝ている。</p>

③私は、毎日同じくらいの時刻に起きている。

中間評価

各種指標結果 ① 全体として93%の生徒が肯定的な回答 ② 全体として81%の生徒が肯定的な回答 ③ 全体として90%の生徒が肯定的な回答	
自己評価	分析（成果と課題） 昨年度同時期のアンケート結果と比較して、全体の数値が上昇している。昨年度から続くコロナ禍で、生徒本人や保護者が感染症対策として免疫力を高めるためにバランスの取れた食事、規則的な生活（早寝・早起き）を意識していると感じる
	分析を踏まえた取組の改善 健康な身体づくりをして免疫力を高めるために、バランスの取れた食事、規則正しい生活（早寝・早起き）を生徒・保護者にさらに意識して実践してもらうために保健指導や保護者への啓発プリントなどを計画的に配布していく
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 生徒アンケートの結果 ① 私は、朝食を毎日食べている。 ② 私は、毎日同じくらいの時刻に寝ている。 ③私は、毎日同じくらいの時刻に起きている。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 新型コロナに対する感染症対策は今後も継続が必要である。生徒が免疫力を高めて健康的な学校生活を行うために、地域でも早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣について様々な場で啓発を続けたい

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ① 全体として93%の生徒が肯定的な回答 ② 全体として81%の生徒が肯定的な回答 ③ 全体として90%の生徒が肯定的な回答	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 前期のアンケート結果と数値がほぼ同じであった。昨年度から続くコロナ禍で、生徒本人や保護者が感染症対策として免疫力を高めるためにバランスの取れた食事、規則的な生活（早寝・早起き）を意識し定着していると考えている
	分析を踏まえた取組の改善 年度当初に予定していた取組のとして、自らの健康のために食習慣や生活習慣の在り方を考え、実践しようとする生徒を育成するための「ヘルスウィーク」や「非行防止教室」、「薬物乱用防止教室」、「性教育指導」を系統立てて取り組むことができた。しかし、3学期に予定していた「避難訓練」は新型コロナ感染拡大（第6波）の影響で中止せざるを得なかった。今回は、昼休み注意発生した「地震」を想定した訓練であったので、状況が許せば次年度の早い時期に実施したい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>長期間に渡るコロナ禍で、生徒本人や保護者が感染症対策として免疫力を高めるためにバランスの取れた食事、規則的な生活（早寝・早起き）を意識して、定着していることは素晴らしい。</p> <p>コロナの為に、地域のスポーツや校内の部活動中止期間が度々あって、子どもたちの体力減少が心配される</p>

(4) 学校独自の取組

重点目標	生徒の自己指導力を高める
具体的な取組	<p>今年度、研究指定を受けた「生徒指導の充実に向けた実践研究」を推進し、生徒指導の3機能チェックリストを有効活用しながら、「生徒の自己指導力を高める」取組を全ての教育活動に取り組む。あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を意識して設定する。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>生徒アンケートの結果</p> <p>① 私は、自分には良いところがあると思う。</p> <p>② 私は、学校の規則を守っている。</p> <p>③ 私は、学校に行くのは楽しいと思う。</p>

中間評価

各種指標結果	<p>① 全体として70%の生徒が肯定的な回答</p> <p>② 全体として95%の生徒が肯定的な回答</p> <p>③ 全体として80%の生徒が肯定的な回答</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>特に①の回答については、昨年度同時期と比較して10ポイント近く数値が上昇した。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>落ち着いた環境の中で学校生活を送っている生徒たちであるが、自己肯定感の低い生徒が多いのが本校のここ数年の課題である。今年度「生徒指導の3機能」を活かした教育実践を推進する為に「生徒指導」についての研究指定に取り組んだのも、このことが要因であり。今後も実践を続けていきたい</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>生徒アンケートの結果</p> <p>①私は、自分には良いところがあると思う。</p> <p>②難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している。</p> <p>③ 私は、学校に行くのは楽しいと思う</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校に通っている生徒たちの姿を見ていると総じて良い表情をしており安心している。これからも継続した取組をお願いしたい。</p>
---------	---

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>① 全体として70%の生徒が肯定的な回答 ② 全体として70%の生徒が肯定的な回答 ③ 全体として80%の生徒が肯定的な回答</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>ここ数年, 学校の状態が非常に良く, 生徒たちはのびのびと落ち着いて学校生活を送れる環境にあると考えている。しかし, アンケート結果では我々教職員が考えているより自己肯定感の低い生徒が多く, その課題解決に向けて今年度は「生徒指導」についての研究指定に取り組んだ。昨年度のアンケート結果の数値より10ポイント近く向上したことは, 一定の成果があったと考えているが, 今後も継続した実践が必要であると思う</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>あらゆる教育活動の中で, 自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教職員全員が意識して設定できるよう, 今年度は「生徒指導の充実に向けた実践研究」の研究指定校として取り組んだ。生徒指導課担当主事からも様々な指導・助言を賜りながら, 校内研修を繰り返した。次年度も同研究指定を受けているので, 「生徒指導の3機能」を意識した日々の教育実践をさらに深化して継続していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校に通っている生徒たちの姿を見ていると総じて良い表情をしており安心している。これからも継続した取組をお願いしたい。</p>

(5) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>働き方改革を推進するため, 教職員の意識改革を図ると共に地域・保護者との意識の共有に努める</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出退勤システムを適切に運用し, 教職員の勤務時間縮減と管理を徹底する。 ・ 教職員定期健康診断の悉皆受診や要精検者への受診指導を図る。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレスチェック受検率 ・ 時間外勤務時間の前年度との比較

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>ストレスチェックについては昨年度と同じ100%の受検率 時間外勤務については、前年度より若干増加傾向にある</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>小規模校ゆえに、一人一人の先生にかかる校務分掌・学年分掌が多いために主任級の教職員の時間外勤務がなかなか改善できていない</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今年度より放課後の部活動の時間を従来より短縮した。時間外勤務が少しでも軽減できるよう今後も努力を続けたい</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の昨年度との比較
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>教職員が熱心に生徒に関わることによって、時間外勤務が増えるのは理解できる。行事や部活動など簡単に削減することは難しいと思うが、今後も工夫を続けてほしい</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>ストレスチェックについては昨年度と同じ100%の受検率 時間外勤務については、2022年になってからは、新型コロナ感染拡大に伴い部活動中止の措置をとったために一気に減少傾向にある</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>小規模校ゆえに、一人一人の先生にかかる校務分掌・学年分掌が多いために主任級の教職員の時間外勤務がなかなか改善できていない。新型コロナ感染拡大に伴い、部活動の中止期間がある時期は時間外勤務も一気に減少する。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>令和3年度は、年度当初より1学期間「技術科」教員が配置されなかったり、1学期末から長休になった英語科教員の代替え（補充）がなかったことで、教職員の多忙感・疲弊感が昨年度までよりも深刻であった。生徒たちの教育活動を止めないために、全教職員が力を合わせてカバーしてきたが、教員委員会とも一層連携して教職員の負担軽減に努めたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>新型コロナの対応や教育の制限は今後も続くであろうので、学校の取組については前例踏襲をするだけでなく、学校の新しい生活様式に見合った「スリム化」した教育活動の構築が必要であると思う。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

<p>重点目標</p> <p>他者へのいじめを行わないことはもとより、自分自身がいじめ防止等の取組の当事者となり、その解決に向けて主体的に行動できる生徒を育成する。</p>

<p>具体的な取組</p> <p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。 ③いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う。(生徒アンケート項目より) ④児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>① 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答 ② 年度当初に全校生徒に向けて校長より紹介している ③ 全体として97%の生徒が肯定的な回答 ④ 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答 ⑤ 昨年度からのコロナ禍で、保護者に集まっていた機会ほとんどないが学校だよりやホームページを通して周知している</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p>年度当初に「いじめ・不登校の未然防止」をテーマに校内研修会を行った。日々の教育活動において、生徒の居場所作り・絆づくりを意識した取組を継続することが未然防止に繋がることを全教職員で確認し、日々の生徒指導に対応している。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>いじめアンケートに頼らず、日々の生徒の様子や保護者対応に心を配り、いじめの未然防止・早期対応を継続して行いたい。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。 ③いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う。(生徒アンケート項目より) ④児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>初期段階のいじめや、ごく短期間のうちに解消したいじめ事案についても、学校が組織として把握し(いじめの認知)、見守り、解決につなげる為に、全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し組織的対応に努めて欲しい。</p>

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>① 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答 ② 各学期の始業式で全校生徒に向けて校長より紹介している</p>

- ③ 前期と大きな変化がなく、全体として97%の生徒が肯定的な回答
- ④ 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答
- ⑤学校だよりやホームページを通して周知している

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

日々の教育活動において、生徒の居場所作り・絆づくりを意識した取組を継続することが未然防止に繋がることを全教職員で確認している。次年度も引き続いて全教職員が生徒指導の3機能を意識した日々の実践を継続していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を忘れずに日々の生徒の様子や保護者対応に心を配り、いじめの未然防止・早期対応を継続して行いたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

アンケートは定期的実施されているが、何よりも日々の先生方の生徒に対する観察と情報交換がいじめの早期発見・解決に欠かせないと思う。多忙な中でも、生徒達への目配りを忘れないで欲しい。